歴研おかやま
okayama history research society

第３６号
令和５(2023)年７月21日発行
会員募集中
年会費　3,000円
10月以降入会 1,500円

# 令和５年度定期総会開催される

去る４月29日（土）に岡山県立図書館で令和５年度定期総会が開催され、31名が出席した。出席者が少なかったのは残念であるが、コロナの余波が影響した可能性もある。

総会は運営委員の濱手英之氏の司会で始まり、楠敏明会長により議事が進行された。まず令和４年度事業報告、同決算報告が楠会長からあり、その後に監事の那須丈平氏からの監査報告があった。決算報告に１箇所入力ミスがあったため訂正された後、事業報告、決算報告とも承認された。

続いて令和５年度事業計画(案)、並びに予算(案)の報告があった。令和４年度は本会計と特別会計（10周年記念事業関係）に分かれていたが、５年度予算は特別会計を本会計に統一した案が示された。審議の結果、事業計画、予算案ともに承認された。

続いて、各委員会（事業委員会、サロン委員会、会報委員会、ホームページ委員会）の委員長から事業計画の報告が行われ、事業内容をより詳細に理解することができた。

議案審議終了後、第２部として、岡山大学医学

## 歴・研・展・望

５月26日に、「京都・謎の秦氏ゆかりの地を訪ねる」探訪会が行われた。46名が参加。工藤事業委員長の御尽力で、一般の方の参加が半数を占めた。松尾大社、広隆寺、伏見稲荷大社を廻った。京都の街は1,200年の歴史のある街。倉敷同様に、戦災で焼けなかった故に道路が狭く、かつ高い建物が少ないと改めて気付いた。歴史の為せる処であろう。ビルが主人公でなく人が主人公の街であり、奈良や吉備国岡山と同様であると感じた。

渡来人の秦氏が関わったとされる３か所であるが、それがどのように反映されているのかはわからなかった。平安京の造営には和気清麻呂が大きく関わったとの説明があった。

最初に尋ねた松尾大社の庭は、岡山出身の重森三玲の作とのこと。曲水を生かした庭である。「三玲の庭や　岩漱ぐ　水涼し」という駄句ができた。裏山に大きな磐座があり、当初は松尾山の頂上に神社があったとのこと。それを麓に移築する際、秦氏が関わったとのことらしい。「赤鳥居　緑におわす　松尾神」という句ができた。

次いで広隆寺。国宝第１号の弥勒菩薩が安置され、また、別棟に聖徳太子像を祀る堂もあった。「何おわす　弥勒菩薩や　薄暑光」という句ができた。広隆寺には太い根元がつながっている大木があるのに驚いた。「広隆寺　太き連理の　夏木立」という句にまとめた。途中、側を通った渡月橋には観光客が戻っていた。「コロナ過ぎ　渡月橋にも　山笑う」。

最後に訪ねたのは伏見稲荷大社。正一位の神階で、旧官幣大社。平安末期から鎌倉時代には祇園社とともに天皇の行幸が恒例とのこと。赤が目立ち、静かに額ずく雰囲気でなく、句もできなかった。

（楠　敏明）

※この京都探訪会については、次号に詳しい報告を掲載します。

部教授の和田 淳 氏による「健康寿命を延ばすには」という講演が行われた。和田教授は昭和63年に岡山大学医学部を卒業され、平成28年から腎・免疫・内分泌代謝内科学（旧第三内科）の教授を務められている。

歴研の会員は高齢者が多いこともあり、出席者は興味深く講演に聴き入った。

# 「健康寿命を延ばすには」

岡山大学医学部教授（腎・免疫・内分泌代謝内科学）　*和田　淳 氏*

私たちの教室では、難病や生活習慣病を中心に診ている。難病は少ないが、生活習慣病は高血圧3000万人、糖尿病1000万人、脂質代謝異常3000万人、CKD（慢性腎臓病）1300万人と多い。

歴史上の人物で長生きしたのは徳川家康75歳だろうが、食事や薬草など健康のために気を遣っていたようだ。平均寿命は生まれた赤ちゃんが生きる年齢、皆さんは更に長く生きる。日本がトップであるが、健康寿命とはギャップがある。岡山県の平均寿命は2020年のデータでは女性は１位、男性が10位であったが、2019年の健康寿命は女性14位、男性35位と良くない。健康寿命を延ばすために生活習慣を良くしよう。腎臓病や心臓病がある人の寿命はどうしても厳しいので、疾患を治療し重症化を防ぎたい。

よく耳にする言葉にフレイル、ロコモ、メタボがある。フレイルとは老化に伴う心身の低下状態（介護には入っていない）のことで、更に軽い状態をプレフレイルという。フレイルは身体的フレイル、社会的フレイル、精神心理的フレイルの３つに区分される。

フレイルになると介護リスクが４倍以上になる。診断基準として、①ダイエットしてないのに６箇月間で体重が低下、②握力が男性28kg未満、女性18kg未満、③歩行速度が遅い（1m／秒より遅いと信号が渡れなくなる）。３項目とも当てはまるとフレイル、１～２だとプレフレイル、１つも当てはまらないと健康と言える。

年をとると肉、魚を食べなくなる。タンパク質は１日体重1kgあたり１～1.2g必要。既にフレイルと言われたら、体重1kgあたり1.2～1.5g必要。ビタミンDも大切で、ある程度日光に当たることも必要である。

ロコモは運動器の機能低下のことで、進行すると要介護になる。ロコモ度を測るには立ち上がりテストなどいくつかの方法がある。ロコモになる原因として、骨が弱る（骨量低下、骨粗鬆症）、変形性関節症、サルコペニア（筋肉量減少）などがあり、原因別に適切な治療が必要である。フレイルになる原因としてはロコモが一番多い。

メタボは、内臓脂肪型肥満に加え、高血糖、脂質異常、高血圧のうち２つ以上を合併した状態である。同じように太っていても、女性は皮下脂肪が厚い（洋ナシ型肥満）ので糖尿病になりにくいが、男性は皮下脂肪が薄く内臓脂肪がたまりやすい（リンゴ型肥満）。

運動によって使うエネルギーは、意外に少ない。有酸素運動は脂肪を使う運動で、エアロビクスなど、ハーハーゼイゼイ言わないもの。無酸素運動は50メートル走など筋肉中の糖質を使う運動であるが、長くはできない。両方やればいいのだが、有酸素運動は脈拍100をちょっと超える（岡山弁で「ちーとえれえ」）くらいの運動が良い。筋肉を増やそうと思ったらいくら走ってもだめ。マラソン選手は筋肉が少ない。レジスタンス運動（スクワットなど、筋肉に負荷をかける動きをする運動）をすると良い。痩せる、内臓脂肪が減る、イ

ンスリンの効きが良くなるなどの効果があり、メタボが解消できる。

糖尿病は患者1000万人、疑いのある人も1000万人ほど。糖尿病患者もインスリンは結構出ている人が多いが、抵抗性があって利用しにくくなっている。Ⅰ型糖尿病は若い人が急に発症する、自己免疫でインスリンを造る細胞が壊れる病気。Ⅱ型はインスリン抵抗性がある人が高齢になると、インスリンが減ってきて発病しやすい。車社会で歩かないことや食事中の脂質の増加などが影響し、遺伝と環境の両方の因子がある。日本人はインスリン分泌量が少なく、糖尿病を発症しやすいが、欧米人はインスリンの分泌量が多い。糖尿病の診断は、空腹時血糖が110～126mg／100mLが境界型で、それ以上が糖尿病疑い。ヘモグロビンA1cが6%以上で境界型、6.5%以上で糖尿病疑いである。

糖尿病では毛細血管が傷む。神経障害、網膜症（→最終的に失明）、腎障害（→最終的に透析）が糖尿病の3大合併症。「し・め・じ」すなわち「神経・眼・腎」で覚えると良い。動脈硬化は糖尿病の人のみではなく、メタボ、肥満、高血圧、高コレステロール、喫煙なども原因になる。歯周病も糖尿病に関係する。歯周病になると細菌による炎症が起き、インスリンの効き目が悪くなる。高血糖の人は認知症にもなりやすく、大腸がん、肝臓がん、膵臓がんにも少しなりやすい。食事、運動が大事だが、最近はいろいろな薬も出てきて治療が進んでいる。

今、政府が9つの目標を持つムーンショット計画を建てている。7番目が2040年までに主要な疾患を予防・克服し、100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現するという計画。たとえば、細胞内のミトコンドリアに元気がないとATP（エネルギーの元）が作れないので、フレイルになったり要介護になるため、ミトコンドリアを元気にする薬の開発が進んでいる。身体の若返りを目指す再生医療や、老化細胞の除去、微小炎症（慢性炎症）を量子を使って抑える、良い睡眠や冬眠で寿命を延ばせないかなど、夢のような研究が行われている。

講演終了後、手足のしびれへの対応、睡眠を十分取る方法、膠原病に関すること、新薬の臨床試験についてなどの質疑応答があった。

## 訃報　石井前会長が逝去されました

去る4月28日に、石井　保　前会長が誤嚥性肺炎のため93歳で逝去されました。石井前会長は昭和4年に現在の吉備中央町に生まれ、旧制高梁中学校を経て海軍兵学校の最後の期生（78期）となり、戦後は現在の岡山大学農学部に進学して農芸化学を学ばれました。

中学校教員として県内で教鞭を執られましたが、アメリカの教科書などを参考にしながら実習・実験を積極的に採り入れ、斬新な理科教育に取り組まれました。その授業は大変わかりやすく、すばらしい内容であったと仄聞しております。

後に高梁市教育長として手腕を発揮されるとともに、地域の歴史、文化の振興などにも大変大きな貢献をされました。その後も多くの役職を務められ、平成13年春には勲5等双光旭日章を受章されました。

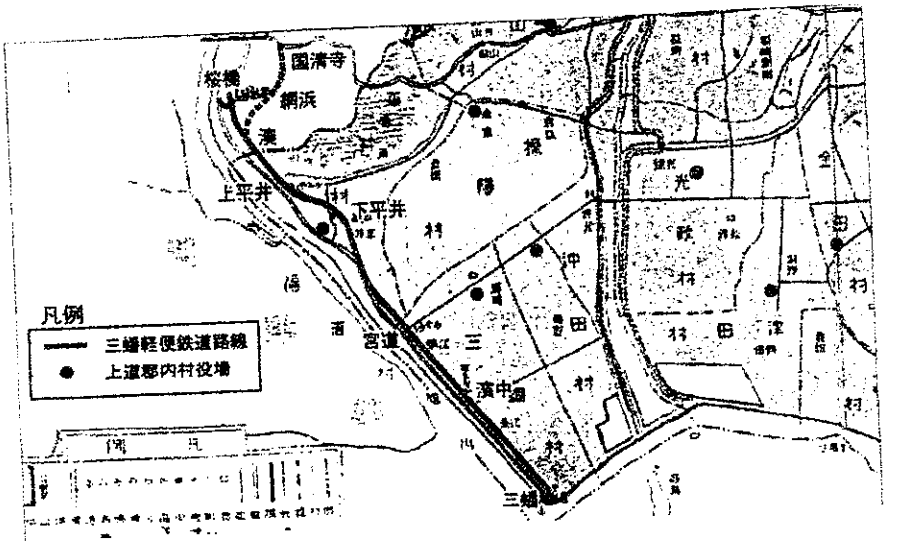
石井前会長は大変温厚・篤実な方であり、理系出身らしい合理的な考えをお持ちでした。また、岡山歴史研究会の発足当初からの会員であり、平成30年度から令和2年度までの3年間、会長として会の発展に尽力されました。この間、京セラ元会長の伊藤謙介氏の講演会や10周年記念誌の発刊など数々の事業を指導していただいたことは、会員の心の中にしっかりと刻まれています。ここに感謝を申し上げるとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

# 幻の三蟠（さんばん）軽便鉄道　－その駅と周辺の景色－

会員・三蟠鉄道研究会会長　内田　武宏

かつて県南部に三蟠軽便鉄道（以下三蟠鉄道）という鉄道があったことをご存じだろうか。三蟠鉄道は大正４年８月11日に開通し、昭和６年６月末廃業の短命に終わったが、地域に支えられ、大きな社会貢献をした鉄道だった。三蟠港に陸揚げされた石炭を岡山瓦斯と鐘淵紡績の工場へ運搬するのが中心で、女工さんなどの通勤客用の客車もつないでいた。軌間（線路幅）は下津井電鉄などと同じ762mmであった。

ここでは三蟠鉄道の走ったルート、鉄道沿線の様子、そして鉄道各駅の特徴と景色を見直してみよう。鉄道が走ったのは上道郡の西端、旭川の東岸に位置するところで、三蟠村から、平井村、そして岡山市まで走っていた。




短命に終わったものの、９つの駅があった。駅舎があったのは、始発の三蟠駅と宮道駅、そして国清寺駅だけであり、その他の駅は駅と言うより停車場であった。

太線部分が三蟠鉄道の当初の路線、点線部分が後に延線した部分。延伸の際に、桜橋駅を廃して手前で分岐し、網浜駅を新設。終点国清寺駅に至るルートになった。

## 三蟠駅

三蟠駅を始発駅としたのは、明治18年に天皇が三蟠港に上陸されたことから、地元民がこの地を誇りに思っていたからである。

また、一方で、古事記、日本書紀に見られるように三蟠港の沖合に高島という神武天皇がしばらくとどまった（高嶋宮）とされる由緒ある島があったからでもある。

明治天皇上陸記念碑

開通当時の三蟠駅舎
当時としては珍しい擬洋風の建築であった

三蟠駅の線路の上で会話する
支配人ほか役員

鉄道が廃線になった後、近くに三蟠発電所ができた。発電所は京橋近くにあった「岡山電灯」が手狭になった為、こちらへ移動したと言われている。そして、後に中国電力三蟠発電所となった。地域の方は最初不満に思ったが、これを機に念願だった水道が三蟠に敷設されたことで喜んだという。

三蟠発電所

**濱中駅**

濱中駅は当時醤油醸造業を営んでいた山中醤油のそばにあった。元山中醤油の一角にあった金光教三蟠教会の建物が、今も残されている。開通当時の役員のご子孫が現在もお住まいである。

山中醤油が醸造した醤油は、常盤丸等２艘の船が大阪まで運んでいた。帰路では紀州に立ちより、材木を買って帰っていた。現在でも、旭川東岸には木材市場や製材所が多く残されている。不幸にして２艘とも台風の被害を受け、紀州沖で沈没したとされる。なお、山中醤油の専用ドックは、現在でもその一部が堤防の内側に残されている。

**宮道駅**

宮道駅は乗降客が多く、構内には複数の線路があった。駅の近くには宮道海水浴場があった。宮道海水浴場周辺では、当時大阪から飛来した水上飛行機が、岡山市内を空から見下ろす観光飛行をしていた。

水上飛行機

宮道駅

**平井駅（後の下平井駅）**

写真の中央に見える電柱の奥に平井駅があった。平井村の村長を務めた妹尾文七郎は、三蟠鉄道の取締役であった。

旧平井駅周辺

**上屋敷駅（後の上平井駅）**

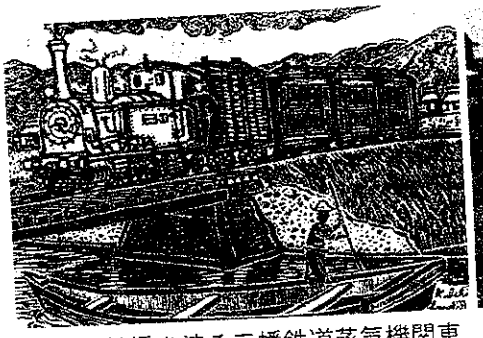
かつての上屋敷駅の上手には、幕末に造られた砲台跡が残っている。東京のお台場は有名だが、現物は確認できない。しかし、ここはくっきりと現存していて、10メートル東を三蟠鉄道が走っていたので、客車からは目の前に見えていたはずであり、岡山県にとっても貴重な文化遺産である。

旧上屋敷駅近くの砲台跡

**湊駅**

駅近くの倉安川橋梁（鉄橋）を渡る、三蟠鉄道蒸気機関車の版画がある。鉄橋の下を舟がくぐっている。倉安川橋梁は産業道路敷設の際に取り壊された。取り壊し前の貴重な写真が残っている。

湊駅付近には、大地主であった橋本幾治の先祖墓所がある。橋本幾治は湊駅を墓所の前に誘致したとも言われている。


倉安川鉄橋を渡る三蟠鉄道蒸気機関車

取り壊し前の倉安川橋梁の橋脚

**桜橋駅**

開通当初の終点。当初駅舎があったが、のちに三蟠駅舎として移築された。

桜橋駅付近停車中の貨客混合列車
左側にガスタンクも見える

移築前の桜橋駅舎

**網浜駅**

延伸で新設された旧網浜駅付近の写真。線路は、写真の電柱の右を北上していたという。今も残されている荒神社の左をかすめて、網浜駅へと線路が延びていた。

かつての網浜駅付近

現在も残る荒神社

**国清寺駅**

国清寺駅は今の岡山市中区門田屋敷にあったが、この駅舎は三蟠駅舎を移築した近代的なものであった。すぐ西隣には、旭東尋常小学校の立派な校舎があった。

旭東尋常小学校と同附属幼稚園舎は、福島県出身の江川三郎八が設計施工に関わっている。江川三郎八は、明治から昭和にかけて福島県と岡山県の建築界で活躍した。県内では、旭東幼稚園舎と真庭市の遷喬小学校本館が国の重要文化財になっている。

国清寺駅のプラットホーム

旧旭東幼稚園舎（八角園舎）

（付）三蟠鉄道の詳細について知りたい方は、以下の書籍を参照してください。

『三蟠鉄道記録集』三蟠鉄道研究会編、吉備人出版、2022（定価3000円＋税）

問合せ先：内田武宏　〒703-8282　岡山市中区平井１丁目２番12号
電話・FAX　086-272-8622　メール　take19ko@outlook.jp

# 吉備の中山ウオーキング

会員　仲田　信一

令和５年３月２日、32名が参加して吉備の中山ウオーキングが行われた。ウオーキングのスタートは、福田海。数十年来、我が家の初詣は吉備津彦神社から吉備津神社まで岡山の「山の辺の道」を歩いて両参りするのが慣例となっている。

吉備津神社の近くにある福田海は何かの宗教法人らしいが、深く考えずいつもスルーしていた。歴研で初めて正式にお参りし解説を伺うと、人間のため使役されその一生を終えた牛の鼻輪（鼻ぐり）を形見として、塚を設けてお祭りしているとのこと。なるほどと納得し、心より手を合わせてお祈りすることが出来た。

そこから五百メートルほど上り坂を行くと、鹿ケ谷平家追討の密議が発覚し備前配流となった藤原成親の五輪塔が建っていた。大納言までなった人の墓にしては、罪人とはいえその小ささに驚いた。周りを囲う真新しい石材の方が五輪塔より高いくらいであった。ここからは更に急峻な上り坂となり息が上がって来た頃、頂上のダイボーの足跡に到着した。この足跡の主、三穂（三歩）太郎は備前の国をたった三歩で歩き、この中山頂上に足跡を残したと伝わっている。二十メートル程の窪地であり、三歩で歩く人の足にしては小さい。かつてはここが分水嶺であり、水がたまって池になっていたとのことである。

ここから更に進むと中山茶臼山古墳の後円部に出た。礼拝所の辺りに穴観音が祭られていた。解説板に、「仏像の横手に穴があり、耳をかざすと観音の声・波の音が聞こえる」とあったが、何も聞こえなかった。朽ちてお顔が良く判らなくなった仏像は、かなり古いもののようだった。この古墳は吉備津彦命の御陵とされ、宮内庁管轄で立ち入りは制限されている。一般人は無理でも、せめて考古学者の調査が出来るようにならないのだろうか？全国の宮内庁管理の古墳を解放すれば、考古学は格段に前進すると思われる。前方部に廻ると礼拝所が立派につくられていた。四十代のころ友人に誘われて遺跡観察会（故　近藤義郎先生主催）で訪れて以来のことで当時が懐かしく思い出された。この拝所の丁度正面に備前と備中の国境石があり、山の辺の道の両国橋と境目線で繋がるのだと納得した。

そこから坂道を下って古代吉備文化財センターに到着。センターに昼食場所を提供いただき、お昼休憩となる。今回残念ながらゆっくり展示を見る時間はなく、鬱蒼とした谷道を下っていくと吉備津神社の回廊の端に出た。毎年お釜殿の方に曲がるので回廊を端から端まで歩くのは初めての経験。四～五百メートルはあっただろうか、吉備津神社本殿に到着、その後祈祷所で全員で祈祷を受けた。その時間に合わせて急いでいたことが判った。祈祷後、お釜殿に生まれて初めて昇殿ができ、お釜炊きの神事も見学できた。ただ残念だったのは、期待していたお釜が鳴らなかったことだが、こればかりは運で致し方がないことだった。

毎年訪れる所ではあるが、歴研ウオーキングに参加したおかげで新しい知識を得て、来年の初詣が更に楽しみになった。最後に、当日の案内などでお世話になった当会顧問の野崎豊氏と吉備の中山を守る会の皆様にお礼を申し上げたい。

岡山歴史研究会

会　長　楠　敏明

岡山歴史研究会

副会長　山崎　泰二

岡山歴史研究会

副会長　大河原　喬

岡山歴史研究会

副会長・会計　中山　幸子

岡山歴史研究会

事務局次長　濱手　英之

秦歴史遺産保存協議会

和名抄『秦原郷』60基を超える古墳群と出合う
３～４世紀の古墳群＝茶臼嶽・一丁坑・大坑古墳
古代寺社＝秦原廃寺・麻佐岐神社・石畳神社・姫社神社
古事記・日本書紀・新撰姓氏録の「秦氏・・・？」

会　長　板野　忠司

岡山歴史研究会

運営委員　富久　豊

岡山歴史研究会

運営委員　井上　知明

## 探訪会の案内と申し込み

# 『宿場町 矢掛の歴史ウォーキング』

10月14日（土）に矢掛町において、近世の宿場町としての隆盛にふれる歴史ウォーキングを開催いたします。町の文化芸術の拠点である「やかげ郷土美術館」、篤姫をはじめ大名らが宿泊した「旧矢掛本陣石井家住宅」、その従者たちが宿泊した「旧矢掛脇本陣高草家住宅」を午前中に訪れます。午後は希望者に限定し、本陣通りから北西へ2km歩いて、曹洞宗の禅寺「大通寺」を見学します。この寺の山側には県指定名勝の約200坪の石庭、本堂の襖には阿吽の龍、星空などの襖絵があり、圧巻です。多数のお申込みをお待ちしています。

記

1．日　　時：令和５年10月14日（土）8:45～15:00　少雨決行

2．集合場所：井原鉄道矢掛駅　観光駐車場8.45に集合
　　（総社駅7:55発～矢掛駅8:23着列車あり）

3．参 加 費：1,300円（当日徴収）

4．昼　　食：やかげ町家交流館内「やかげ茶屋」　軽食あり　弁当＆飲物持込み可能

5．参加募集数：約50名（先着順）

6．案　　内：矢掛町教育委員会　教育課文化財係　西野　望　主幹

7．主なコースと探訪予定地
- 9:00　井原鉄道矢掛駅　観光駐車場　出発
- 9:10～9:55　やかげ郷土美術館
- 10:00～11:00　旧矢掛本陣石井家住宅
- 11:15～11:45　旧矢掛脇本陣高草家住宅
- 12:00～12:40　昼食　やかげ町家交流館「やかげ茶屋」
- 13:20～14:20　大通寺（歩くと片道40分かかるため希望者に限定）

［概要］
- やかげ郷土美術館　：郷土出身作家の作品を展示
- 旧矢掛本陣石井家住宅　：江戸時代の参勤交代で大名が宿泊した本陣、重要文化財
- 旧矢掛脇本陣高草家住宅：大名に次ぐ家老や奉行などが宿泊した脇本陣
- 大通寺　：743年、奈良時代に創建されたと伝わる曹洞宗の禅寺

8．申込及び問合せ先　山田良三（事務局長）
参加ご希望の方は以下のいずれかの方法で氏名、住所、電話番号をご連絡ください
電　話　090-1033-3327　FAX 086-806-2525
はがき　〒700-0973 岡山市北区下中野350-121 コーポ東浦北棟202　山田良三
メールアドレス　rekiken.okayama@gmail.com
- 氏　　名
- 住　　所　〒
- 電話番号

# 歴研サロンが開催されました。(会場はいずれもゆうあいセンター)

## 令和４年12月15日（木）
## 「鎌倉殿と鎌倉仏教　～承久の乱から家康の浄土まで～」

講師　山田良三 氏（事務局長）

27名が出席し、熱心に聴講した。昨年のNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の最後が承久の乱前後の動向であったが、この時児島に流されたのが後鳥羽上皇の皇子頼仁親王で、その家系が児島高徳や宇喜多家につながっている。また、児島氏同族の伊予の河野氏も上皇方であった。一遍（1239～89）は河野氏の出身で熊野権現の神託を受けていたが、同じく熊野権現にゆかりの深い法然（1133～1212）の浄土の教え（南無阿弥陀仏の念仏）を東国に伝えた。

一遍の教えを受け継いだ時宗の遊行僧徳阿弥は上州得川出身で、徳川家・松平家の始祖にあたるとされる。徳川の旗印「厭離穢土欣求浄土」は、恵心僧都源信（942～1017）の『往生要集』の念仏の教えを法然が学び、「仇討ちをするより菩提を弔う」という恨みや憎しみの心を慈悲の教えに変える浄土の教えであった。その教えを実現したのが徳川であり、このような浄土教の流れが長い戦乱の時代を終わらせ、世界にも類例のない平和で平安な暮らしの世を実現させたと言えるのではないかとのことであった。講師の先祖山田重忠も上皇方の武将で、その家系は山田方谷と同じ尾張山田氏だそうである。

講演終了後には、宗教のあり方や神仏分離、信仰心の有無などについて、また、カルト教団などに関する活発な議論が交わされた。（井上知明）

## 令和５年１月22日（日）
## 「謎の渡来人徐福・天之日矛・弓月ノ君の正体」

講師　冨岡宏之 氏
（郷土史家、元自衛官）

参加者22名。古代史のミステリーゾーンがテーマ。冨岡講師のレジュメに基づく慎重な解説には、やはり断定はなかった。徐福が実在したとすれば、秦の始皇帝の暴政から逃れ「亡命」で渡来したにほぼ間違いないこと、弥生時代の夜明けを担った一族が徐福だが、その存在も痕跡も抹殺され、天孫降臨神話などにすり替えられ封印されたのではないかと。

また、天之日矛の鉄伝承地は、渡来人集団をアメノヒボコの始祖神に象徴した説話の伝承地で、神功皇后や秦氏の伝承地とほぼ重なり、さらにニギハヤヒ～物部氏へとつながること、また渡来人秦氏の祖は、弓月ノ君（融通王）＝徐福という説の存在にまで言及された。そしてこれら三者の渡来人と古代吉備への文明伝達の痕跡が鉄など随所にあることも指摘された。

徐福・弓月ノ君・天ノ日矛伝説は日本各地にある中、その正体を追求する久々のロマンあふれるテーマに、果たして史実は・・・？　参加者ひとりひとりの想像は一段と盛り上がるも、各人各様、興味津津で聴講した。（板野忠司）

## 令和５年２月10日（金）
## 「幕末の国際関係」

講師　柴岡　元 氏（元岡山朝日高校長）

参加者24名。1853年８月23日、ロシア使節の提督プチャーチンが来航、幕府の指示通り長崎に到着し、礼儀正しく忍耐強く待機した。ペリー艦隊が威圧的に江戸湾奥まで迫り脅かしたのと対照的。しかも、「ロシ

ア艦隊は、ペリー艦隊が日本を攻めた場合、ロシアが日本の味方になり防衛する」と。幕府全権の筒井肥前守政憲は、プチャーチンの誠実さ、礼儀正しさを絶賛した。プチャーチンは1854年12月4日、ディアナ号で下田に再来航、日露和親条約締結交渉に入ったが、12月23日畿内・東海諸国でM8.4の安政東海地震・大津波が襲来。ディアナ号は浸水するも小舟の日本人3人を救助、プチャーチンは幕府勘定奉行の川路聖謨（かわじとしあきら）を見舞い、ロシア人医師を伴って日本人被災者の治療に全力を尽くした。しかし、ディアナ号は翌年1月16日に沈没。このとき逆に日本は多数のロシア人を救助した。こうして1855年2月7日、日ロ和親条約が締結され、日本はロシアに最恵国待遇を与えた。その後地元から多くの船大工や鍛冶職人が集められ造船、二本マストのロシア船戸田（へだ）号が完成、プチャーチンは無事帰還した。なお、戸田村での地震で死亡したロシア兵は下田市の玉泉寺に埋葬され、墓も現存する。1881年プチャーチンは勲一等旭日大綬章を受勲した。幕末の日露の秘話、このような美談があるのに教科書には掲載されてない。

（板野忠司）

## 令和５年３月10日（金）

# 「神社の系譜とその祭祀」

**講師　野崎　豊氏（顧問）**

当会顧問で神社や神祇信仰に詳しい野崎　豊氏が、「神社の系譜とその祭祀」と題して講演され、37名が熱心に聴講した。

神社はそれぞれ動物と関係があり（伊勢神宮は鶏、春日大社は鹿、熊野三社は鴉、日吉大社は猿、出雲大社はセグロウミヘビなど）、これらの動物が神様の前を歩くのだとのこと。その他、宮中三殿の神には天照大神が入っていないこと（注1）、京都八坂神社の牛頭天王は岡山が元であり、姫路の広峰を経て京都へ行ったこと、仏教では音読みで神道では訓読みであること、物部の祝詞にある十種神宝（とくさのかんだから）（注2）が死者を生き返らせるほどの霊力を持つこと、かごめかごめの歌は丹後籠神社の近くの出雲大神宮に伝わる歌で、出雲大社が天皇家に乗っ取られたことを表した歌であることなど、縦横無尽な話題提供があり、歴史とは文献（史料）であるとも喝破された。

大変興味深い話が多く、融通無碍な野崎節を大いに楽しませていただいた。講演後にも活発な意見交換があった。

（注1）三殿のうち賢所には、天照大神の御霊代とする神鏡が祀られているが、神体そのものではない。

（注2）物部氏との関係が深い『先代旧事本紀』に出てくる。厳密には十種神宝のうちの死返玉（まかるがへしのたま）のこと。

（井上知明）

## 令和５年３月24日（金）

# 「秦氏の基礎知識と論点・秦氏と和気清麻呂」京都探訪事前研修

**講師　工藤　博氏（事業委員長）、山田良三氏（事務局長）**
**板野忠司氏（サロン委員長）**

参加者25名。岡山歴史研究会の「京都・謎の秦氏ゆかりの地を訪ねる」の京都探訪（5月26日実施）を前に、工藤博事業委員長の企画で事前研修が行われた。まず最初に工藤博委員長から京都探訪の日程、視察目的、視察コース、その他参加応募者等への留意事項の説明が行われた。

引き続いて秦氏についての事前研修会が行われ、その第1部では、板野忠司サロン委員長から「秦氏の基礎知識と論点」と題して、渡来人秦氏をめぐる諸説や視察先の京都の風山、広隆寺、松尾大社、伏見稲荷と秦氏との関係などについて説明された。古事記・日本書紀・日本三代実録など、秦氏についての文献はあるが、解釈については、いつ、どこから、どのような実態で渡来したのか、様々な解釈や痕跡がありながら、必ずしも定説はなく、「謎の秦氏」といわれる所以を情報共有した。

第2部では、山田良三事務局長から、「秦氏と和気清麻呂」と題して、日本の宗教と精神文化を作り上げた

渡来人秦氏と吉備の秦氏についての解説が行われ、今回視察する京都の平安京は、郷土岡山にゆかりの和気清麻呂が秦氏と協力して造られたことなどが説明された。併せて、宗教家法然と秦氏、和気氏のルーツと秦氏、京都山背の秦氏と和気氏、美作の秦氏と和気氏の関係などについても説明された。

（板野忠司）

## 令和５年４月２日（日）
## 「備前松田氏史考 Ⅱ」

**講師　松田勝徳 氏（玉松会会長）**

昨年４月３日に、備前金川城主をつとめた備前松田氏家系の歴史について、備前松田氏子孫一族を束ねる玉松会会長の松田勝徳氏（神奈川県在住）においでいただき、松田氏の家系の成立とその後の系譜を語っていただいた。藤原秀郷を祖とする松田氏は、藤原秀郷流波多野氏系松田氏として知られ、各地に広がっている。その中で鎌倉時代に備前に来たのが備前松田氏である。南北朝時代になると足利家に協力した備前松田氏は備前国守護となり、その後室町時代、戦国時代を経て約250年の間、備前国の西部を基盤として足跡を残してきた。

今回は、35名が出席。備前松田氏の歩みの中でも文明15年（1483）に赤松氏と戦った福岡合戦以降、永禄11年（1568）に宇喜多直家に攻められて金川城が落城し、備前松田氏が亡びるまでの興亡の歴史を詳しく語っていただいた。また、備前松田氏は熱心な法華経信徒であったことでも知られている。松田氏が備前に来て富山城にあったころ、三備地方に来た大覚大僧正の教えを受け入れて熱心な法華宗の信徒になった。これが備前法華の始まりであり、備前法華宗徒の三山参拝の記録も残っている。

松田氏が備前を治めた鎌倉から室町、戦国時代に至る約250年の期間は歴史の空白の時代とも言われているが、今回の話を通してこの空白が埋められた。この時代に関心を持つ多くの会員をはじめ、松田家に関係する方も参加して熱心に聴講し、活発な質疑応答も交わされた。松田会長及び玉松会の皆様にお礼を申し上げる。

（山田良三）

## 編集後記

石井　保　前会長が逝去された。個人的なことで恐縮だが、石井前会長は私の中学校時代の恩師であり、必ずしも理系向きではない自分が理系に進んだのも先生の影響が大きかったと思う。御冥福をお祈り申し上げる。

本号には、４月29日に開催の令和５年度総会の概要を掲載した。ポストコロナの状況が影響したのかどうかは不明だが、総会の出席者が少なかったことは少々気がかりである。総会後の和田淳岡山大学医学部教授による「健康寿命を延ばすには」という講演は、直接歴史に関係したテーマではないが、高齢者が多い岡山歴研としては時宜を得た企画であり、参考になることが多かったのではないかと思う。

また、投稿論考として会員の内田武宏氏による「幻の三蟠軽便鉄道　―その駅と周辺の景色―」を掲載した。内田氏は三蟠鉄道研究会会長として長年にわたり三蟠鉄道の歴史を研究されてきた方であり、昨年９月には労作『三蟠鉄道記録集』を出版された。三蟠鉄道という軽便鉄道があったことを知る人は多くはないと思うが、この掲載記事が、短期間ながら沿線地域に大きな貢献をした三蟠鉄道を知っていただくきっかけになるようであれば幸いである。なお、内田氏はこの７月29日開催の歴研サロンで三蟠鉄道に関して講演される予定であり、興味のある方はぜひ御出席いただきたい。

その他には、今年３月２日に実施した「吉備中山ウオーキング」の報告、昨年12月以降今年４月２日までの歴研サロンの報告などを掲載した。

（井上知明）

発　行　岡山歴史研究会
会　長　楠　敏明
編集長　井上知明
事務局　〒700-0973 岡山市北区下中野350-121
コーポ東浦北棟202　山田良三方
電　話　090-1033-3327（携帯電話）
ＦＡＸ　086-806-2525
メール　rekiken.okayama@gmail.com
ホームページ　http://b.okareki.net/